

2020年9月20日（日）聖霊降臨後第16主日

銀座教会 主日家庭礼拝

（このしおりは、教会ホームページから配信されている礼拝と内容が異なります）

礼拝招詞 「聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。」

ローマの信徒への手紙 10章 11節

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

讚美歌 16番 いときよきみかみよ

聖書 ヨハネによる福音書 1章 14～18節

14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。15 ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。「『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。」16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

牧会祈禱

天の父なる神さま。あなたが今日の日まで、私たちにお与えくださった恵みを数え感謝いたします。御前に立ち、祈る心を与えられました。神を仰ぎ、あなたの御名を呼ぶことが出来ました。小さな者をあなたが顧みてくださいました。感謝いたします。自らの過ち、弱さを主の御前に隠さず祈ることが出来ますようにお導きください。

教会の交わりを感謝します。一同に集まることは出来ませんが、家庭で礼拝をささげている友がいることを覚えます。また、天国におられる信仰の友を覚えます。神の家族の課題は神さまがすべてをご存じです。最善の道をお与えくださることを信頼して歩めますように祈ります。先週は敬老祝福の祈りをささげました。神さまによって、与えられた大切な信仰を確認し、あなたの祝福をいただき感謝いたします。教会学校の子どもの学びと友情をお

支えください。コロナ禍で生活支援が必要な方々をお助けください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説教 「独り子である神」

牧師 高橋 潤

本日は、使徒信条の中心部分をご一緒に学びたいと思います。使徒信条は大きく三つの部分に分けられます。それは、神、イエス・キリスト、聖霊の三つです。そして、この三つの後に、教会、最後の審判、復活について記され、信仰を告白します。

イエス・キリストについての書き出し部分は「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず」です。この告白の言葉について、教会の歴史と聖書の御言葉からお聞きしたいと思います。この部分のラテン語の語順は、「イエスはキリストであり、父の独り子であり、そして我らの主である」という順序です。元来、使徒信条は、洗礼に導く信仰教育のために生まれました。神を信じる筋道として、聖書に記されている主イエスはキリストであり、父なる神の独り子であると教えられています。ここに、教会の信仰の中心があります。

使徒信条に記されている「イエス」は、いうまでもなく歴史上の人物として新約聖書に登場する主イエスです。父ヨセフと母マリアの子としてお生まれになった主イエスです。父ヨセフの大工の仕事を引き受け、その後、家族から離れ、ガリラヤ湖畔で伝道を開始し、弟子たちと共にエルサレムに入りました。そこで逮捕され、真夜中の裁判で十字架刑の判決を受け、処刑されました。そして、主イエスの予告通り、三日目に復活の主イエスは弟子たちにお姿を現されました。古代の教会は、この主イエス・キリストは、神なのか、人間なのか、人間がある時に神になったのか、神がある時人間になったのか等、熱い議論が続きました。そのような様々な意見の対立の中で、私たちが是非覚えておきたい二つの教会会議があります。一つ目の会議は、紀元325年現在のトルコ共和国のイズニクという町で開かれたニカイア会議、最初のキリスト者の皇帝であるコンスタンティヌスによって招集され、帝国内の混乱したキリスト理解を解決しようとした。もう一つの会議は、カルケドン公会議、紀元451年現在のトルコ共和国イスタンブール近郊の町で行われたキリスト教の公会議です。ニカイア会議において、主イエスが父なる神と「一つの本質」（ホモウーシオス）であると主張し、主イエスは人間ではなく神であるという主張を退けました。カルケドン公会議は、東ローマ皇帝によって召集され、議長は総主教のアナトリオスが務めました。この会議では、ニカイア会議の決定を再度確認して、キリストは神ではなく人間であるという新しい意見に対して、キリストには神性と人性の両方があることを確認しました。この二つの教会会議において与えられた結論は、「イエス・キリストは、マコトの神にしてマコトの人である」という言葉でした。そして、この結論を土台にして23人の司教によって起草されたカルケドン信条が定められました。

主イエス・キリストは、神であり同時に人であるという論理的には矛盾すると思われる驚くべき結論は、人間の知恵を越えた神の知恵を信仰によって受け入れたということです。神の御前に立つ事によって与えられた真理を受け入れました。この信仰によって、聖書が、否定されることなく、生き生きと力をもって私たちに迫ってくることになりました。使徒信条は、世代を超えた年月を経て、教会会議によって神から与えられたイエス・キリストは神であり人であるという聖書の中心となる信仰を確立しました。批判にさらされた教会に新しい力が与えられました。

その後の大問題は、新約聖書に登場し使徒信条によって告白されているナザレのイエスは果たして実在する人物なのかという問いです。この問いに教会はどのように答えたのでしょうか。現在では、多くの研究成果によって、主イエスが歴史上実在しなかったと断言することは出来なくなりました。その根拠となったのは、新約聖書以外の多くの古代文書が読めるようになったことです。一例を挙げるとタキトゥスの『年代記』、スエートニウスの『皇帝クラウディウス伝』、ヨセフスの『ユダヤ古代誌』、その他にも主イエスの同時代の重要な文書の中にも主イエス・キリストが発見されました。これらによって、主イエス・キリストが新約聖書だけで作り上げた人物ではなく、教会や信仰をもたない様々な文書によっても登場する人物として確認することが出来たのです。主イエスが歴史的に存在しなかったという疑問をもつ主張は消えていきました。

このように、使徒信条と新約聖書は、時代を超えて批判し続けられ、その批判の中で吟味され、教会を守ってきた告白です。教会にとっては、社会的地位の高い人々や学問的な権威ある人々の痛烈な批判にさらされようとも、決して教会の信仰は踏み潰されることなく守られた歴史があることを忘れてはならないのです。長い年月、多くの批判にさらされながらも、主の日に時には小さくなって集まり礼拝をしていた人々がいました。この世の様々な力が襲っても、奇跡的に守られたのが信仰を告白する教会です。私たちが毎週の礼拝において使徒信条を告白することは、大きな意味があるのです。いと小さき信仰者が神のみ力によって守られた信仰の言葉を受け継いでいることを誇りにしたいと思います。そして、感謝して使徒信条の一つ一つの言葉を喜んで告白したいと思うのです。

古代の教会会議や新約聖書と同時代の古代の文書によって、主イエスは、キリスト救い主である事、神の独り子であると告白し続けてきた使徒信条は、ある人間の思いつきの言葉ではないのです。古代より教会に与えられた信条は神がお与えくださった信仰の言葉なのです。そして、今後のキリストの教会は、この信仰に立ち続けることによって、神の御前に立つ事が出来るのです。その上で私たちは信仰の先達と共に声高らかに神を賛美し続けるのです。

現在でも、イエス・キリストに対する言われなき批判は続いています。主イエスは偉大な預言者、偉い人と褒めちぎりながら、その背後には主イエスは神ではないと暗に主張する批判がくり返し登場します。そのたびに、私たちは、教会の歴史の遺産である二つの公会議に立ち帰ることが出来るのです。主イエスは、神であるから私たちを救う力を持つのです。主イエスは人間であるから、十字架上で死なれたのです。今や批判に答える時代からこの信仰を誇りとして、賛美告白する伝道の時代を迎えているのです。

私たちに与えられた信仰は、イエス・キリストが、十字架に架かる直前、人間イエスが神になったのではないということを理解しなければなりません。人間が神になったのではなく、神が人になったのです。この順番は間違えてはなりません。重要です。どっちでも良いとは決していえません。どんなに頑張っても人間が神になることはできません。そうではなく、最も重要なことは、神が低きに降り人間になってくださり、神が自ら人間の罪を引き受けてくださった事実なのです。使徒信条の「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。」という信仰は、人となって下さったマコトの神に対する、賛美なのです。キリストを巡る長い対立に終止符を打つことが出来た、喜びの告白なのです。主イエス・キリストの父

なる神は、神のふところから主イエスを引き離したのです。讃美歌 332 番 2 節は、主イエスは「父のもとをはなれて、わびしき世にすみたまえり」と賛美します。父にとって独り子は、誰よりも愛する子です。喜びの源です。この父と子は、永遠より共にいて愛し愛されてきたのです。しかし、今や独り子が人となって派遣され、永遠なる愛の交わりは絶たれてしまったのです。主イエスが独り子であるとは、この神の愛の交わりが絶たれることなのです。主イエスが人となった後も、この地上において主イエスは祈りの人でした。絶えず、神への祈りを大切にしていました。そして、父なる神も主イエスと共に祈っておられたと思います。この姿は、父のふところにおける交わりとは、違うのです。私たちが、「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。」と告白することは、この神の愛の犠牲を無視して、あたりまえであるかのような顔で告白することはできないのです。神は私たちのような愛するに価しない罪人を救うために、最愛の独り子を犠牲にして遣わしてくださったのです。

本日与えられた聖書の御言葉にあるように、神の御心が主イエスを通して明らかにされるのです。「16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」

私たちは主イエス・キリストを神の独り子と信じる信仰によって、父なる神を知る事が出来るのです。主イエスを通して独り子さえお与えになる神の愛を知る事が出来るのです。

私たちは、この神の愛を忘れることなく、信仰を告白したいと思います。イエス・キリストを通して、父なる神の愛に包まれていることを覚えたいと願います。

祈り 天の父なる神さま。あなたが教会にお与えくださった信仰告白を私たちが受け継ぐことを許されていますことを感謝いたします。時代を超えて人間の言葉によって批判されてきましたが神の言葉が奇しきご計画によって与えられています。神の愛に裏打ちされた信仰告白を喜び賛美する者としてください。主イエス・キリストの皆によって祈ります。アーメン

祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 ウイルスの脅威の中にあって平和と平安をお与えください

夏の大雨によって被災した方々に慰めと希望を与えてください

教会学校に繋がる生徒たちはじめ、全国の大学生の心身が守られるように
医療従事者の健康と使命が主の守りの中にありますように

讃美歌 196 番 うるわしきは神のみとの

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン